

道徳通信

～「むこう岸には」～

愛西市立八開中学校

道徳通信

令和3年12月15日

📌「他国の人と理解し合うために大切なのは、どんな心だろう。」～道徳「むこう岸には」を通して考えました～

川のむこう岸には、自分たちと違う人が住んでいるので渡ってはいけないと言われていた「私」。ある日、むこう岸から手を振っている男の子に気づき、手を振り返します。あくる日、「私」はその男の子が綱を引く舟に乗り、むこう岸へ渡ります。男の子の家族は、髪の毛は黄色くもしゃもしゃで、にぎやかな色の服を着ています。でも、おじさんはお父さんと同じ漁師で、小さい子は弟と同じように川の石で遊んでいます。「私」は「私たちは違う。だけど、とってもよく似ている。」ことに気づくのです。

そして、大人になったら「この川に橋をかけるんだ。」という夢をもちます。夢を語る「私」にどんな思いがあるのかを話し合い、学びのテーマについて考えました。

●● ●●くん

知りもしないのに勝手に物事を決めつけるのは自分にとって損していると考えた。

●● ●●さん

他国の人と理解し合うことは難しいなと感じた。外国の人は昆虫？を食べている人もいて、私はちょっと食べることはできないかなと思った。肌の色も宗教も、食べ物も違う人と理解し合うことは難しいと思った。

●● ●●くん

誰かに言われたことを簡単に信じてしまうのではなく、実際に自分の目で真実を確認することが大切だと思う。自分勝手な偏見をもたず、常に物事を疑う事も大事だと思った。

●● ●●さん

他国の人と交流する機会がないけど、勝手な偏見でその国の人達を傷つけている可能性もあるので、気をつけようと思いました。お互いにその国の文化などをしっかりと理解する必要があると思いました。

●● ●●さん

実際に会ってみると自分が思っていたこととは違うことがある。理解し合うためには偏見を無くすことが大事だと思った。

●● ●●さん

差別や偏見などはしていないと思っていても、きっと気づかないうちにどこかでできてしまっていると思いました。差別や偏見はありもしない噂まで作ってしまいます。私はそんな噂に囚われず、人を尊重し、尊重されるような人になりたいです。

●● ●●くん

心の中で偏見はダメだと分かっているけど肌の色が違ったり、体格が違う人が近づいてきたり話しかけられるのを想像すると、怖いと思うのでまだ偏見が残っているのだと思った。これからはそれをなくせるように頑張ろうと思う。

●● ●●さん

自分と違う見た目や文化で、勝手に距離ができてしまい、差別することがよくある。私も外国人を見るとウツと構えてしまうことがある。けれど、同じ人間ということには変わりない。この物語のように、一度受け入れてみる、挑戦してみることが大切だと改めて感じた。それで夢ができるかもしれないと思った。

●● ●●さん

自分も他国の人と話す時、言語や宗教の違いによって壁を作ってしまうことがある。そのような偏見をしないためにも自分から他国の言語や宗教などを調べて理解を深めたいと思いました。違う国で生活しても「同じ人間だ」ということを頭に入れて他国の人と接していきたいと思いました。

何千回でも、何万回でも
こっちからあっちへ、あっちからこっちへ
会いに行けるだろう。

ニコラス、グラシエラ